



2019年2月7日

各 位

会 社 名 ウェーブロックホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役兼執行役員社長 木根 純
(コード番号：7940 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役兼執行役員管理本部長 石原 智憲
(TEL. 03-6830-6000)

(訂正)「2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料」の一部訂正について

当社が2019年1月31日に発表いたしました「2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料」の記載に一部誤りがございましたので、下記のとおり訂正いたします。なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。

記

1. 訂正の内容

2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料
2ページ 「サマリー」
今後の見通し
売上高

(訂正前)

売上高 2,850 百万円 (前年比+2.9%)

(訂正後)

売上高 28,500 百万円 (前年比+2.9%)

2. 訂正後の補足説明資料

別紙、訂正後の決算補足説明資料をご覧ください。

以 上



**2019年3月期 第3四半期
決算補足説明資料**

2019年1月31日（木）

**ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証一部）**

■ 売上高 21,347百万円（前年同期比 +2.0%）

- 期初計画に対しての進捗は順調
- 編織事業が販売低調も、インテリア事業、産業資材・包材事業、アドバンステクノロジー事業がカバー

■ 営業利益 1,215百万円（前年同期比 △18.5%）

- 期初計画に対しての進捗は順調
- 原油価格高騰を背景とするコストアップにより上期営業利益は対前期比大幅ダウンとなったが、第3四半期以降、売価転嫁効果が徐々に浸透し回復基調

■ 今後の見通し

期初計画通り、過去最高の売上・営業利益を上げた前期並みの年間業績達成を見込む

- 売上高28,500百万円（前期比+2.9%）
- 営業利益1,840百万円（前期比+0.3%）

(単位：百万円)

	2018年3月期 第3四半期累計 (実績)	2019年3月期 第3四半期累計 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率	2019年3月期 通期 (予想)	進捗率	2018年3月期 通期 (実績)	前期実績と今 年度業績予想 値との比較
売上高	20,934	21,347	+413	+2.0%	28,500	74.9%	27,702	+2.9%
営業利益	1,492	1,215	△ 276	△18.5%	1,840	66.1%	1,834	+0.3%
経常利益	1,765	1,519	△ 245	△13.9%	2,160	70.3%	2,144	+0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,314	1,127	△ 186	△14.2%	1,600	70.5%	1,594	+0.3%
1株あたり 当期純利益※	133.42	114.60	—	—	163.86	—	161.52	—

※発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2018年3月期第3四半期は9,849,741株、2018年3月期末は9,875,128株、2019年3月期第3四半期は9,841,868株、2019年3月期末（予想）は9,764,547株です。

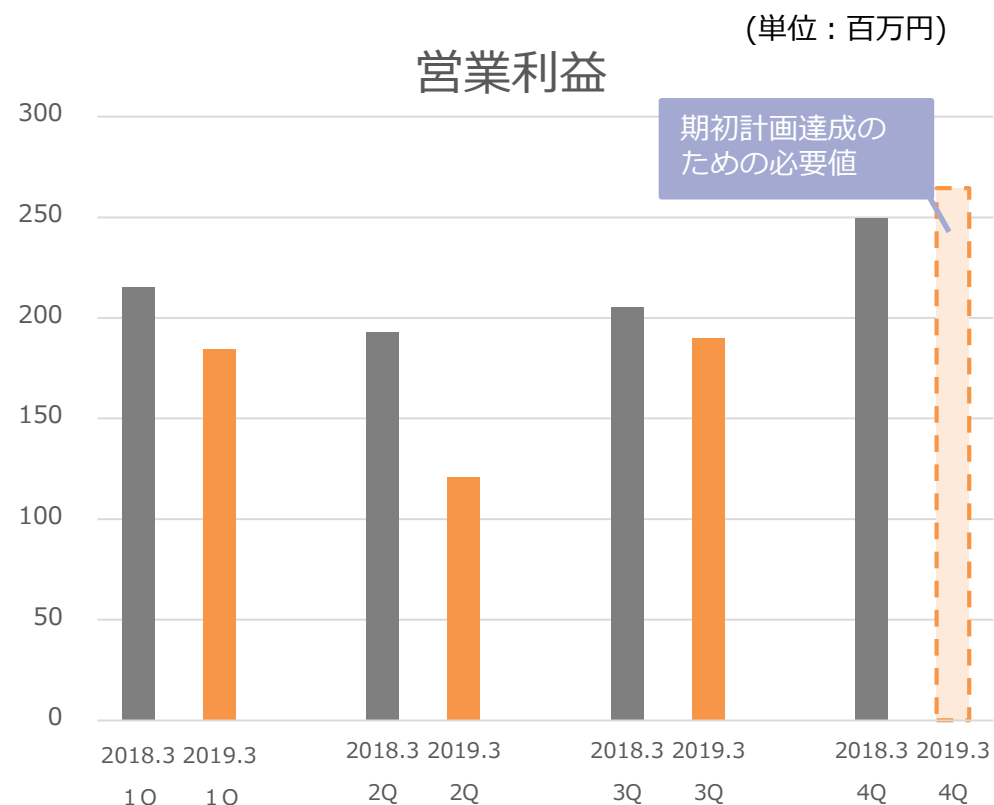
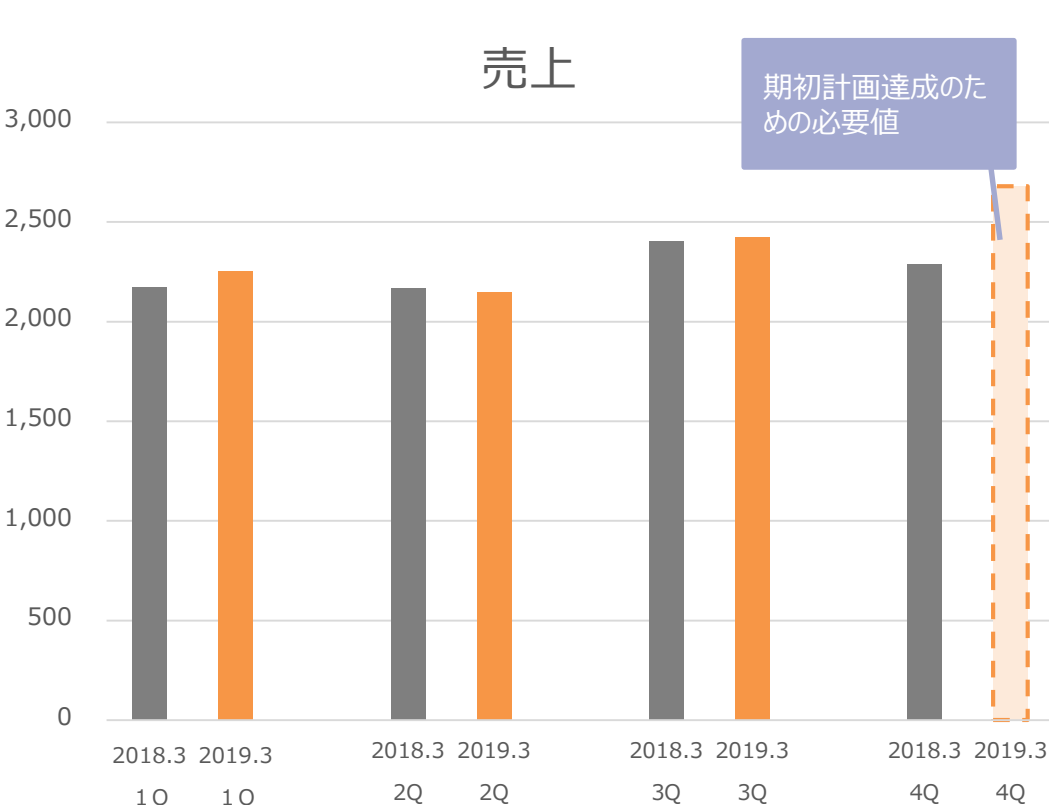
(単位：百万円)

	2018年3月期 第3四半期 (実績)	2019年3月期 第3四半期 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率
売上高	20,934	21,347	+413	+2.0%
インテリア	6,742	6,819	+77	+1.1%
編織	6,265	6,247	△ 18	△0.3%
産業資材・包材	6,818	7,164	+345	+5.1%
アドバンステクノロジー	2,619	2,749	+130	+5.0%
その他・消去	△ 1,511	△ 1,632	—	—
営業利益	1,492	1,215	△ 276	△18.5%
インテリア	613	495	△ 118	△19.3%
編織	593	455	△ 138	△23.3%
産業資材・包材	255	270	+14	+5.5%
アドバンステクノロジー	293	313	+20	+6.9%
その他・消去	△ 263	△ 318	—	—

セグメント別四半期業績推移

(単位：百万円)

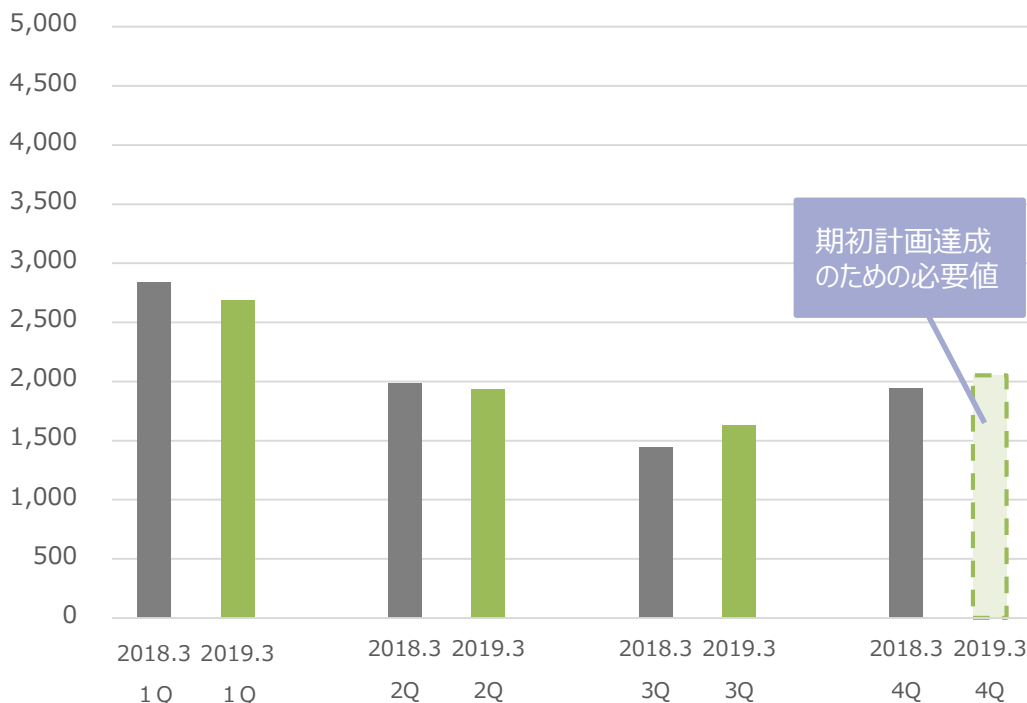
	2019年3月期										
	1Q (実績)	前年比	通期 進捗率	2Q累計 (実績)	前年比	通期 進捗率	3Q累計 (実績)	前年比	通期 進捗率	通期 (業績見込)	前年比
売上高	7,577	△0.9%	26.6%	14,364	△0.1%	50.4%	21,347	+2.0%	74.9%	28,500	+2.9%
インテリア	2,250	+3.5%	23.7%	4,398	+1.3%	46.3%	6,819	+1.1%	71.8%	9,500	+5.2%
編織	2,688	△5.2%	32.4%	4,617	△4.2%	55.6%	6,247	△0.3%	75.3%	8,300	+1.1%
産業資材・包材	2,377	+1.3%	25.6%	4,729	+2.1%	50.9%	7,164	+5.1%	77.0%	9,300	+2.3%
アドバンステクノロジー	824	△2.0%	22.9%	1,701	+3.6%	47.3%	2,749	+5.0%	76.4%	3,600	+4.8%
その他・消去	△ 562	-	-	△ 1,083	-	-	△ 1,632	-	-	△ 2,200	-
営業利益	569	△23.5%	30.9%	861	△23.0%	46.8%	1,215	△18.5%	66.1%	1,840	+0.3%
インテリア	184	△14.3%	24.3%	305	△25.3%	40.2%	495	△19.3%	65.2%	760	△12.0%
編織	342	△20.0%	48.3%	438	△20.8%	61.8%	455	△23.3%	64.1%	710	△1.7%
産業資材・包材	101	△21.3%	29.7%	163	△16.9%	48.0%	270	+5.5%	79.4%	340	+10.8%
アドバンステクノロジー	39	△34.1%	9.7%	156	+19.9%	38.2%	313	+6.9%	76.5%	410	+39.2%
その他	△ 99	-	-	△ 201	-	-	△ 318	-	-	△ 380	-
経常利益	707	△14.1%	32.8%	1,082	△16.6%	50.1%	1,519	△13.9%	70.3%	2,160	+0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	506	△15.4%	31.6%	795	△16.6%	49.7%	1,127	△14.2%	70.5%	1,600	+0.3%



- 期初より量産品売上好調。中級品については、第1四半期に起きた（株）サンゲツ見本帳配付遅れの影響により売上低調であったが、第3四半期以降、徐々に復調
- 前述の中級品の復調に加え、秋からの値上げ効果が徐々に浸透し、第3四半期より売上高増加
- 第4四半期も好調に推移し前期比増の見込み

- 秋からの値上げ効果等により第3四半期以降の利益率は回復。加えて比較的利益率の高い中級品の売上復調が利益増に寄与
- ただし、第3四半期は旧値での受注残もあり、フルの値上げ効果は享受できず
- 第4四半期は値上げ効果がフルで浸透。通期での営業利益目標達成を見込む

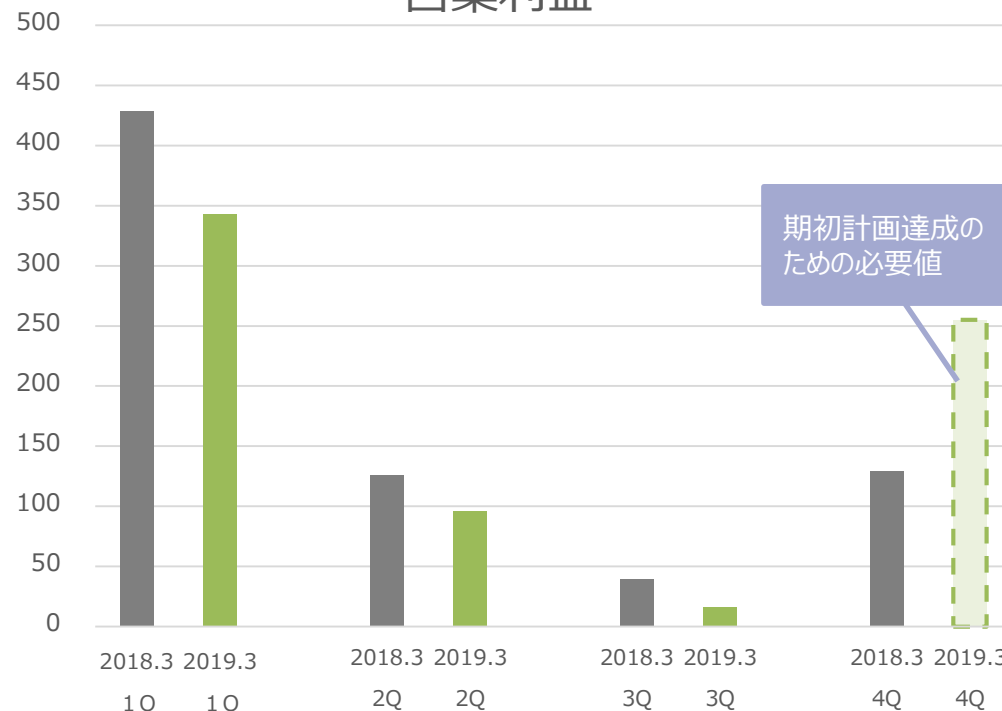
売上



- 上期は一部取引先統合による商圈逸失等により前期比売上高減少
- 農業資材における事業物件の取り込みや季節商材の拡販が奏功し第3四半期の売上高増加
- 加えて、ホームセンター向けの生活資材分野の需要期である第4四半期のシーズンインに向けて大口取引先を再獲得したことにより、第4四半期の売上高は前期比増の見込み

(単位：百万円)

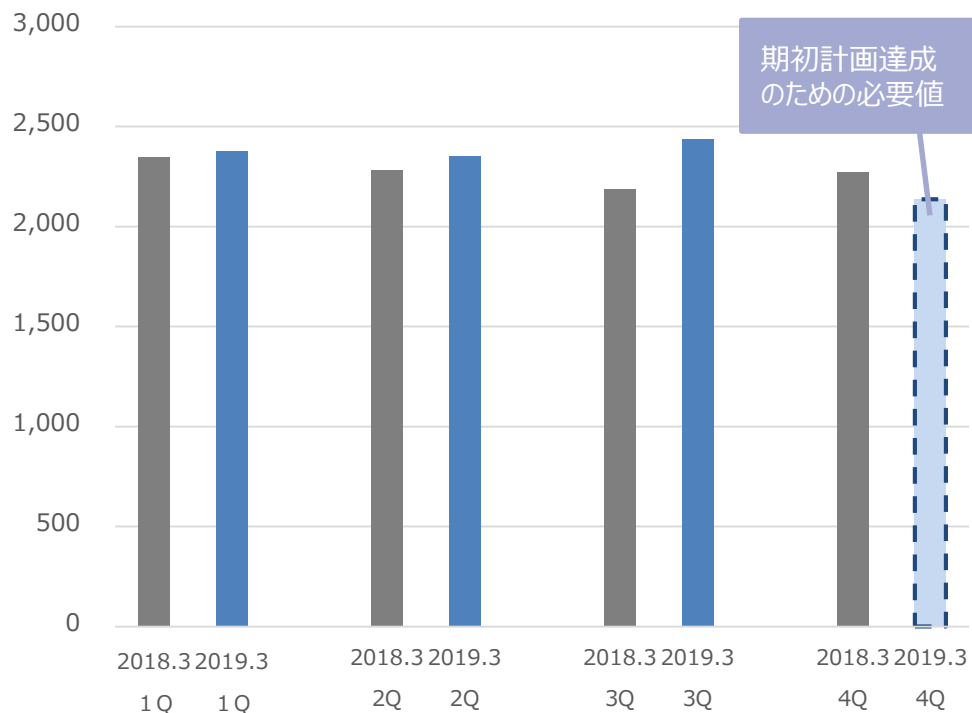
営業利益



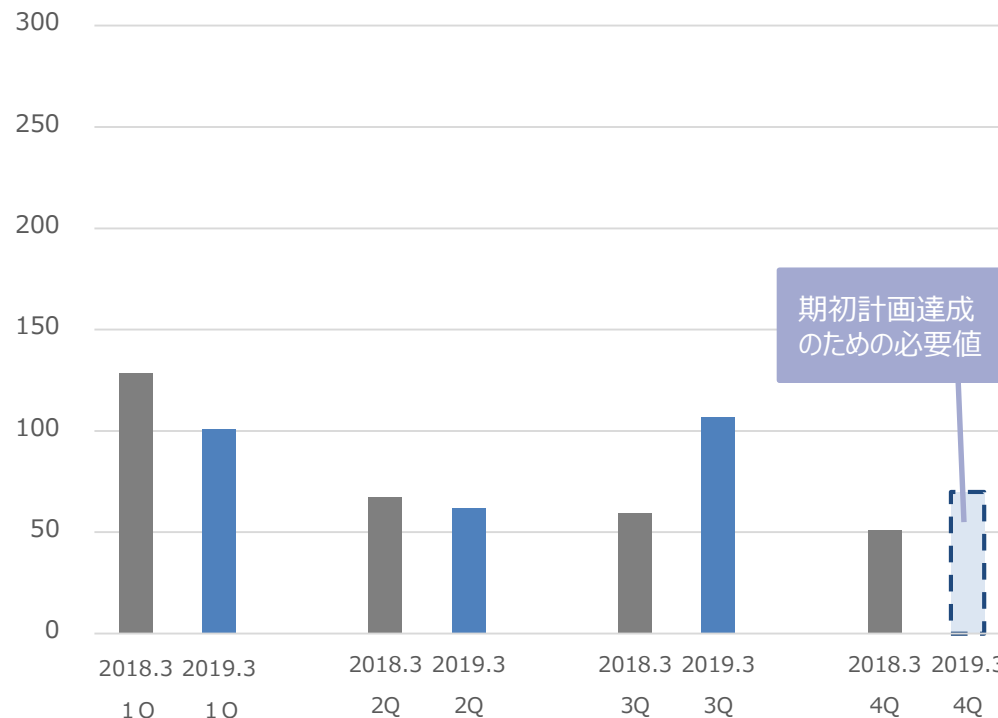
- 第3四半期からの売上高の増加に加え、3月からの需要期における大口取引先獲得による売上拡大に伴い、営業利益も増加する見込み

(単位：百万円)

売上



営業利益

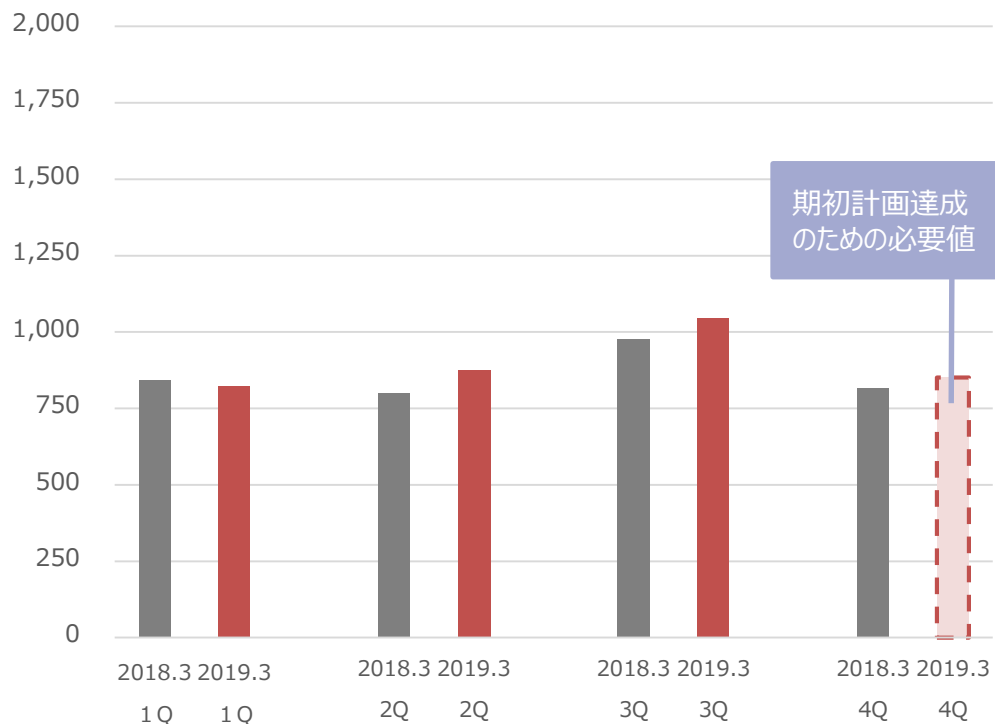


- 産業資材分野においては建設および住宅関連業界向けの需要が堅調
- 包材分野においてはコンビニエンスストア向けの食品容器成型品が低調だったものの、食品包装用シートがコストアップ分の売価転嫁を秋以降進めた上で売上高増加
- 今期を通して各四半期で前期売上高を上回る。売上高通期目標は達成可能と見込む

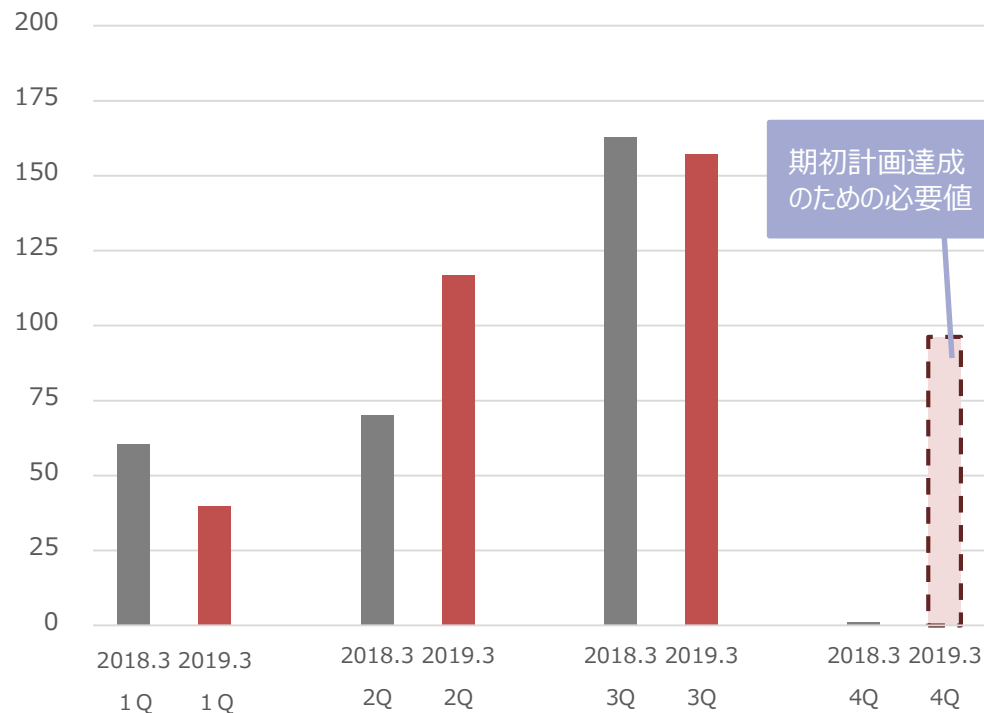
- 第3四半期以降、値上げ効果により利益率が改善し営業利益増加
- 第4四半期以降は食品容器成型品を中心に生産体制の見直しを実施したこと等により、更なる利益改善を見込む
- 通期の営業利益目標達成は可能と見込む

(単位：百万円)

売上



営業利益



- 金属調加飾フィルム分野は、中国での自動車に対する新たな環境規制により生じた在庫調整の影響を受け、第4四半期は失速。
- PMMA/PC2層シート分野においては、中国市場向けスマートフォン用途の販売が堅調

- 前期のPMMA/PC2層シート分野は、生産トラブルにより大幅赤字で他分野からの利益を帳消し。結果、前第4四半期はほぼブレイクイーブン
- PMMA/PC2層シート分野の上記生産トラブルは当第1四半期までに解消。第2四半期以降、売上高・利益ともに大幅改善
- 第4四半期は中国市場の落ち込み等により金属調加飾フィルム分野は低調と見込むが、PMMA/PC2層シートを中心とする他ビジネスにより営業利益は通期目標達成を見込む

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。